

○事業所名	児童発達支援事業きだっこ		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 10日		令和7年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11人	(回答者数) 10人
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 21日		令和7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの発達に合わせて個別療育や集団療育を行っている	子どもたちの好きなこと・得意なことからヒントをもらい、職員間で話し合いを重ねて活動内容を考えています。運動遊びが必要な子どもには1対1で職員とコミュニケーションを取りながら遊びを楽しみ、友だちとの関わりを大切にしたい時期にはごっこ遊びを楽しめる環境を考えています。また、集団を2つのチームに分け、朝の会や帰りの会は集中して話を聞ける時間を設けています。	家庭での様子や困り事を保護者から聞き取り、子どもの姿も観察して、一人ひとりに合った支援方法を考えていきます。今後はリトミックを支援内容に積極的に取り入れ、友だちと一緒に体を動かして遊ぶ活動を行っています。
2	地域の資源・関係機関との連携が取れている	地域で活動されている団体に講師をお願いし、保護者向けの勉強会を開催したり、地域の小学校の運動場、保育園の園庭で遊ばせてもらう機会を定期的に設けたり、保育園の同年齢の子どもと交流して遊べる機会を定期的に設けたりしています。地域の中学校へ福祉体験教室の講師として出向き、児童発達支援の仕事の紹介をする機会もありました。	市内の他事業所とも連携を取り、家族支援の情報交換を行っています。また、市と他事業所と共同でペアレントトレーニングを開催し、家族支援の充実と職員の資質向上を目的としています。
3	職員のチームワークの良さ・勉強熱心なところ	職員一人ひとりの強みを活かし、苦手なところ、できなかったところは否定をせずに、全員でフォローし合い、チームで仕事をすることを大切にしています。 子どもの発達や療育についての研修、人材育成の研修に積極的に参加し、学んできたことを職員間で共有して日々の療育に活かしています。	事業所会議の他に、パート会議を開催し、パート職員への情報共有、伝達をこまめに行い、パート職員の療育・支援への意識、困り事を改善していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	2～5歳の異年齢での支援のため、活動内容が低年齢の子どもに合わせていることが多く、環境設定が年齢の大きい子どもに合わせる事ができていない	異年齢でのチーム分けをしているので、集団療育をする時に、チームの担当支援者が1人の場合、個別の合わせた環境を設定しにくさを感じています。 運動遊びの器具が低年齢向けの器具に偏っています。	年齢や発達に合わせたチーム分けを提案したり、活動内容を年齢ごとに行う機会を作っています。 放課後等デイサービスと協力し、遊びに必要な道具やおもちゃを提供してもらい、年齢に合わせた活動も取り入れていきます。
2	プレイルームや園庭があるが、年齢に対して狭く感じる	園庭は併設している0～2歳児在園の保育所の設備なので、ダイナミックに動く幼児の体にはスペースが合っていないと感じています。 天候の悪い日でもダイナミックに動かしたい子どもが多く、室内のプレイルームの広さでは発散できていません。	天候が悪い日に楽しめる室内遊びや机上で遊ぶことのできる自立課題等を考え、活動に取り入れていきます。 地域の小学校の運動場や保育園の園庭、散歩先に公園でおもいっきり体を動かせる機会を定期的に設けていきます。
3	マニュアル類の整備	こども家庭庁が出しているマニュアルを参考に業務に当たっていますが、事業所独自のマニュアルの整備が追いついていません。マニュアルがあるものでも、保護者へは概要だけ説明し、公表はしていません。	今後、感染症マニュアルや事故防止マニュアル等の事業所独自のマニュアルを作成し、職員や保護者に周知、説明を行います。